

2014 年度 無人島の冒険☆エゾシカ探検隊 実施報告レポート

近年、北海道の各所で、エゾシカによる農作物の被害、交通事故、森林へのダメージが報告されている。対策としてエゾシカの駆除、鹿肉や鹿革の有効利用などが行われており、一定の効果が、出ているが十分ではない状況が続いている。

また、多くの子どもたちは、エゾシカが森林破壊や農作物へ被害を与えていることを知らない。子どもたちにとっては、かわいい動物であり、駆除すること可哀想だと思ふ存在である。その感情は、とても大切であり育むべき優しい心であるが、自然が失われ各種動植物の減少などの自然環境の破壊が進行している現実を知らないこと、そして共生について考える機会が、少ないことが問題であると考えている。

北海道という自然に恵まれた地域においては、自然風土との「共生」が大切である。自然保護一辺倒ではなく、自然と人間の生活を調和させて、自然生態系を守りながら資源を持続的に利用することが重要である。

「エゾシカ」をテーマに自然環境や生態系のバランス、害獣としてのエゾシカ、食材資源としてのエゾシカなど複数の視点から学習することで自然環境への関心と理解を深め、自然との共生を考える基礎を養うことが本事業の狙いである。

エゾシカ秘密探検隊は、子ども対象の体験学習プログラムである。エゾシカの食害問題などをはじめ各種環境問題は、現時点だけの問題ではない。持続可能な自然環境対策が必要である。そのためには、自然環境について考えることを人材が育たなければ、問題は解決しない。自然環境教育を子どもたちに実施することで、自然と共生できる地域を生み出す基盤づくりが急務である。

北海道は豊かな自然が身近にたくさんある地域であるが、それゆえに自然環境保護教育に対する関心が低い地域である。また、案に動物を駆除することは可哀想という慈愛からくる保護一辺倒な考え方をする人も多い。

自然環境が生活において重要な地位にあるこの地域で、自然との共生を重視する自然体験型環境教育を子ども対象に実践することで、次世代の環境意識改善を図ることも重要だと考えている。

2015 年 3 月 21～22 日に実施した体験学習プログラムは、次の順のように段階的に編成して目的達成を目指した。

- ① 自然を知る、学ぶ
- ② 自然に親しむ
- ③ 自然を楽しむ
- ④ 環境問題について知り、関心をもつ
- ⑤ 自然を守り、命を大切にする心を育てる

参加者は、小中学生 18 名。皆、自然環境や動植物に興味のある好奇心旺盛な子どもたちであった。2 日間にわたり 3 つのテーマで環境学習を行った。

1 つ目のテーマは、「悪者？エゾシカの秘密を探ろう」である。エゾシカと人間が引き起こしている様々な問題について学習した。だれが悪いという犯人さがしではなく、エゾシカの生態と自然の仕組みについて知識を深め、問題の本質を知ってもらうきっかけを生み出すものであった。

2 つ目のテーマは、「うまい？エゾシカ・クッキング」である。エゾシカとの共生、活用する方法としてエゾシカを食肉として流通されはじめていることを知ってもらうと同時に、参加者自身でエゾシカ肉を調理し、食べることでエゾシカ肉の資源価値を体感してもらう。エゾシカを観察するだけの野生生物という対象から、食材という視点を追加してもらうことで、エゾシカをはじめ自然環境に対して多様な価値があることに気づいてもらい、自然環境への興味を高めた。ちなみに鹿肉は、バーガーとスモークに調理され、子どもたちは笑顔であぶりついていた。

3 つ目のテーマは、「無人島へ？エゾシカ探検隊」である。支笏洞爺国立公園内、洞爺湖に浮かぶ中の島で、自然観察体験を実施する。冬期、中の島は、観光船が着岸しないため無人島のような環境になっている。人間社会から離れた環境で生きている様々な野生動物や自然環境を自分の目で発見、観察して環境についての考察を深めた。

エゾシカや他の動物が暮らす自然環境をトレッキングしながら、楽しみながら学び、環境問題と人間生活が共生することの難しさと大切さを心に感じてもらった。

このプログラムを通して、子どもたちは環境問題に対して理解を持ち、仲間と共に考えたことで社会性を養ったと確信している。



